

# 多読の実践と評価に関する一考察

大阪樟蔭女子大学非常勤講師 片岡晴美

## 1. はじめに

近年、多読は、英語学習者の学習意欲を促進するという研究結果（酒井・神田，2005；高瀬，2007，2008，2010；Yamashita，2008）を受け、大学英語教育に導入されている。多読とは一般的に「多読の三原則」である「①辞書は引かない，②わからないところはとばす，③つまらなければやめる」を踏まえた上で、100万語読破を目標に、絵本レベルで語数も少なく簡単な内容の本から読書を開始し、大量の本を読み、各本について日本語で一行程度の読書記録（Book Report）を書く学習活動（古川・伊藤，2005；古川，2006）と定義されている。

本校においても多読学習活動は導入されている。2013年度は、1回生の Comprehensive English A/B と Communicative English A/B の授業、そして2回生の Comprehensive English C/D と Communicative English C/D の授業で多読が行われている。筆者が担当する2回生の Comprehensive English C/D の授業では、大学の学習規定に従い、読書10分、読書記録3分、そして英語母語話者の先生が担当する Communicative English C/D の授業では、読書10分の学習活動を行っている。つまり2回生の学生は、1週間に合計20分間の読書と3分間の読書記録をつけ、半期に6冊の本を読破する事を目標に多読を行っている。その為、先行研究で定義している多読と同一の学習活動ではなく、本校独自の多読学習活動であると言える。そして読書記録の形式も、学習規定の読書記録フォームを参考に、各授業担当者が学生の習熟度や特性を考えて独自に作成している。その為、読書記録は日本語で書く方が良いのか、英語で書く方が良いのか、日英両言語で書く方が良いのか定まっていない。

また学習者は、自分よりも高い能力を持つ教師や級友とのやり取りで学習を発達させ習得するという Zone of Proximal Development (ZPD) の学習習得概念 (Vygotsky, 1935; 1978 に英訳出版)，そして ZPD を基本概念として発達した Scaffolding (Bruner, 1985; van Lier, 1996)，Action Research (Wallace,

1998; 佐野, 2005), Task-based Language Learning and Teaching (Ellis, 2003)などを考慮すると, 学習者は多読学習活動において他者と全く関わらなくても良いのだろうか, という疑問が生じる。そこで本稿では, 学習者側からの多読学習活動の評価を調査する。

## 2. 研究

### 2.1 目的

2013年度春学期から行っている読書記録の言語形式と, 秋学期から導入した自分が読んだ本について英語で相手に1分間話すというグループ・ワークについて, 学生がどの様に感じているのかを調査する。

### 2.2 参加者

2013年度に Comprehensive English C/D を受講している3学部の2回生42名である。英語能力の参考の為に, 1回生の終了時点である2013年1月に実施した英検学力試験の点数と, 学部別のクラス習熟度を記載する(表1)。

表1. 参加者

学部	人数	合計点	平均点	習熟度
児童	16	5247	327.94	7クラス中、上位4番目
心理	14	5384	384.57	5クラス中、上位2番目
国文	12	3706	308.83	4クラス中、上位3番目
合計	42	14337	341.36	

### 2.3 研究課題

先行研究(古川・伊藤, 2005; 古川, 2006; 酒井・神田, 2005; 高瀬, 2007, 2008, 2010; Yamashita, 2008)では分析されていない内容を取り上げる為, 以下の2つの研究課題を設定した。

- ① 学生は読書記録(Book Report)を, どの言語で書きたいのか。
- ② 学生はグループ・ワークをどの様に思っているのか。

## 2.4 多読学習活動

本研究における多読学習全体の流れを、図1に記す。多読で読む本は、大学側が各学生の英語能力を考慮し、各自2冊を指定し、購入させている。購入した本は、大学指定の紙製バッグにクラスごとに集めてClass Libraryとした。教員はClass Libraryを管理し、授業の都度、教室へ運んだ。学生は自分が読みたい本をClass Libraryから選び、多読を行った。本研究の学生が使用したClass Libraryの1冊あたりの語数は、690語から3700語で、平均語数は1819語であった。



図1. 多読学習活動の流れ

読書記録は、2013年度春学期は日本語（付録1）で、秋学期は読書記録の英文例（付録2）を参考に、英語と日本語（付録3）で書いた。

次にグループ・ワークの手順を表2に記載する。2013年度春学期は、まだ読んでいない本が多いので、本の情報を先に与えることになる当活動は行わなかった。しかし春学期終了時点で大多数の学生が、読書目標である6冊読破を達成できた。そこで、2013年度秋学期からグループ・ワークを導入した。

なお当活動では今井（2012）を参考に、Group Work Sheet（付録4）を用いて学習活動を記録した。

表2. グループ・ワークの手順

Step	時間	活動内容
1	1分	2～3人のグループに分かれる。
2	1分	第1スピーカーが、自分の読んだ本について1分間英語で説明する。 第1スピーカー以外の人は、第1スピーカーが英語で説明した内容を、自分のGroup Work Sheetに記録する。
3	1分	第2スピーカーが自分の読んだ本について1分間英語で説明する。 第2スピーカー以外の人は、第2スピーカーが英語で説明した内容を、自分のGroup Work Sheetに記録する。
4	1分	第3スピーカーがいる場合は、Step 2や3と同様の活動を行う。 第3スピーカーがいないグループは1分間で自分のGroup Work Sheetの未記入部分を書く作業を行う。

## 2.5 方法

2013年12月10日と11日に、質問紙調査を行った。質問紙の様式は、量的研究と質的研究を合わせたミックス法(Dörnyei, 2007)を採用した。質問項目の1～8は、竹内(2003, p. 254)を参考に5件法の意識調査である量的研究手法、そして質問項目9は自由記述とし、質的研究手法を用いた。

## 3. 結果と考察

質問項目1～8の結果を、表3と図2に記す。

表3. 質問紙調査(5件法)結果

N = 42	項目内容	M
1	Book Reportは、英語だけで書く方が良い。	221
2	Book Reportは、日本語だけで書く方が良い。	326
3	Book Reportは、英語と日本語の両方で書く方が良い。	345
4	自分が読んだ本について、英語で1分間話すGroup Workは、英語の勉強になる。	326
5	Group Workは、やった方が良い。	343
6	Group Workをする時に、Group Work Sheetを使うと、色々記録したり、自分の振り返りになるので、良い。	343
7	Group Workをする時に、Group Work Sheetがあった方が、喋りやすい。	357
8	何も使わずに、英語で自分が読んだ本の説明を出来るようになりたい。	390

(注) 5 = そう思う(ほぼ100%), 4 = ややそう思う(75%程度), 3 = どちらともいえない(ほぼ50%), 2 = あまりそうは思わない(25%程度), 1 = そうは思わない(ほぼ0%)

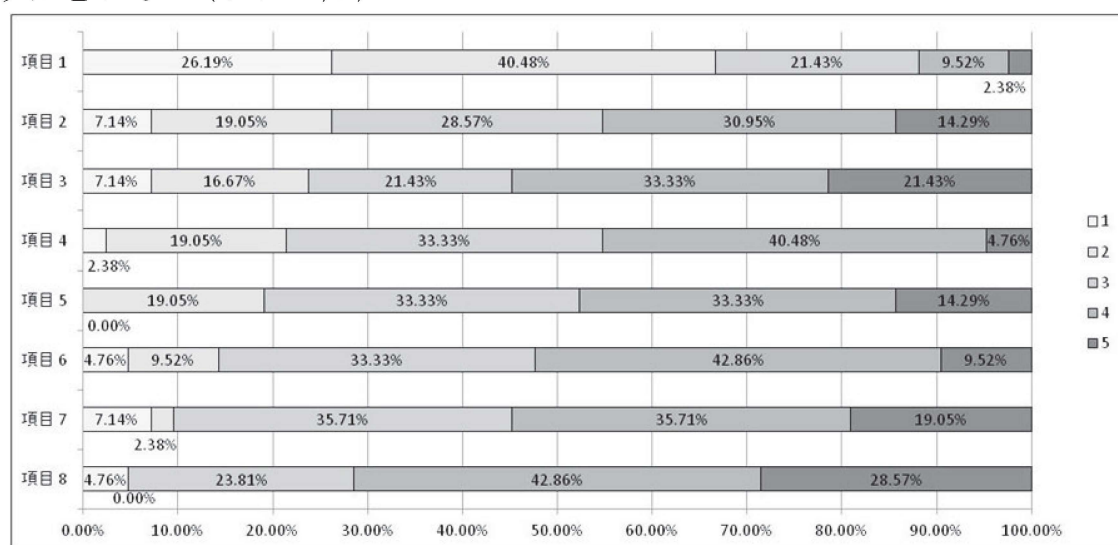


図2. 質問紙調査(5件法)結果

研究課題①は、質問項目 1～3 で調査した。その結果、項目 3 の平均値が 3.45 と最も高く（表 3）、5 件法で 5 を選んだ学生が 21.43%、4 が 33.33%、5 と 4 の合計が 54.76%（図 2）と過半数を超えた事から、学生は学習記録を英語と日本語の両方で書きたいと望んでいると明らかになった。

研究課題②は、質問項目 4～8 で調査した。その結果、多くの学生は自分が読んだ本の内容を 1 分間で相手に英語で話すグループ・ワークについて、英語学習の観点から有効な学習活動であると捉えていることが伺われた。

また平均値が 3.90（表 3）と最も高かった項目 8 の調査結果について、5 件法のスケール間に差が無いかを比較調査した。その結果、 $\chi^2(4) = 12.48$ ,  $p = .01$  で回答に有意差が認められた。そして項目 8 は、5 を選んだ学生が 28.57%、4 が 42.86%、5 と 4 の合計が 71.43%（図 2）であったことから、本研究に参加した 7 割以上の学生達は、Group Work Sheet の様な会話の補助となる物を使わずに、自分が読んだ本の内容を英語で説明できるようになりたいと、強く望んでいることが明らかとなった。

質問項目 9 は「Book Report や Group Work Sheet について、あなたの思いを自由に書いて下さい」とし、質的研究の観点から自由記述調査を行った。

その結果、42 人中 37 人 (88.10%) が回答していた。総記述数は 46 で、3 つのカテゴリーに分類した（表 4）。自由記述の結果から、学生は学習活動を肯定的に捉えている傾向があると分かった。

表 4. 自由記述調査結果

カテゴリー	記述数	代表的な記述
Book Report	20	自分がどんな本を読んだのかを英語で書き留めていけるので Book Report は良いと思うけど、毎回英語で書ける文は限られてしまう。それを補う意味でも日本語も書けるのはいいと思う。(心理)
		英語で Book Report を書くと、単語が出て来なかったりして大変でした。(国文)
		日本語で書いた方が何を読んでどのようなストーリーだったか分かるが、英語を書く力がつくとは思えない。(児童)
Group Work	21	いつも Group Work Sheet を書き終えないので、できたら時間を延ばしてほしいです。(心理)
		Group Work の時間が短い。英語の文を考えながら、しゃべっていると 1 分はすぐくるから延ばしてほしい。(児童)
		英語で話すことがほとんどなく、いざ話すときにとっても緊張していたのですが、グループワークなどでパートナーとしゃべることができました。今では、外国の先生のとときも英語で答えるようになりました。(国文)
その他	5	Book Report も Group Work もあまり好きではないけど、やることに意味はあると思います。だから、続けていくほうがいいと思います。(児童)
		Book Report や Group Work Sheet をすることによって、自分自身の英語力が上がったと思うし、英語にだんだん慣れていけるのでよかったと思う。(心理)
		英語の勉強になるから、やった方がいいと思う。本を読む時間がもっとほしい。(国文)

(注) 学生が書いた通りに記載する。

#### 4. まとめと今後の課題

研究課題①について、学生達は読書記録を日英両言語で書くことを望んでいると分かった。

そして研究課題②について、学生達はグループ・ワークを有効な英語学習活動であると捉えていると明らかになったことから、今後も秋学期の授業に組み込んで続けていきたい。ただし、Group Work Sheet を書く時間と喋る時間が短いとの指摘（表4）があったので、グループ・ワーク全体の時間については、今後、学生にとって最適な学習時間を見つけることが必要である。

また黛（2013）は、CALL 教室を使用して音声 CD を聞きながら本を読んでいく「聴き読み」形式を併用した多読は、学習効果が高いと報告している。本校の学生に最適な多読学習活動の形式を試行錯誤しながら見つけていくことを、今後の課題としたい。

#### 参考文献

- Bruner, J. (1985). *Child's talk: Learning to use language*. New York: Norton & Company.
- Dörnyei, Z. (2007). *Research methods in applied linguistics: Quantitative, qualitative, and mixed methodologies*. Oxford: Oxford University Press.
- Ellis, R. (2003). *Task-based language learning and teaching*. Oxford: Oxford University Press.
- 古川昭夫・伊藤晶子（2005）. 『100万語多読入門』コスモピア.
- 古川昭夫（2006）. 『多読クラス 読書記録手帳』株式会社エスイージー.
- 今井祥詠（2012）. 「聞く・話す・書くことを統合した1分間チャットの取り組み」樟蔭学園英語教育センター主催ワークショップ.
- 酒井邦秀・神田みなみ（編著）（2005）. 『教室で読む英語 100万語—多読学習のすすめ—』大修館書店.
- 佐野正之（2005）. 『はじめてのアクション・リサーチ—英語の授業を改善するために—』大修館書店.
- 高瀬敦子（2007）. 「大学生の効果的多読指導法」, 『関西大学外国語教育フォーラム』, 6, 1-13.
- 高瀬敦子（2008）. 「やる気をおこさせる授業内多読」, 『近畿大学英语研究会紀要』, 2, 19-36.

- 高瀬敦子 (2010). 『英語多読・多聴指導マニュアル』大修館書店.
- 黛 道子 (2013). 「多読図書のコーディネート：やさしく，楽しく」 日本多読学会 第6回関西多読新人セミナー.
- 竹内 理 (2003). 『より良い外国語学習法を求めて』松柏社.
- Yamashita, J. (2008). Extensive reading and development of different aspects of L2 proficiency. *System*, 36, 661-672.
- van Lier, L. (1996). *Interaction in the language curriculum: awareness, autonomy, and authenticity*. London; New York: Longman.
- Vygotsky, L.S. (1978). *Mind in society: the development of higher psychological processes*. (M. Cole, V. John-Steiner, S. Scribner, & E. Souberman. Trans.). Cambridge, MA: Harvard University Press. (Original paper in Russian was published in 1935).
- Wallace, M. J. (1998). *Action research for language teachers*. Cambridge: Cambridge University Press.

付録 1. 読書記録：2013 年春学期

Extensive Reading		Book Report		p. ___	
Student No. _____		Name: _____			
※本を楽しむ3原則：①辞書は引かない ②分からないところはとばす ③つまらなければやめる					
Book No.	書名:	語数		・この本 ( 語)	
	出版社:	・累計		( 語)	
読んだ日	月 日	読み終えた日	月 日		
英語レベル	難しかった	まあまあ	易しかった		
	☆…最高! ◎…とても面白い ○…まあまあ △…まあいぢ ×…つまらなかった				
	・多読の満足度 (☆～×のどれかで記入) ( )		・本の評価 (☆～×のどれかで記入) ( )		
内容紹介・感想・メモ:					
Book No.	書名:	語数		・この本 ( 語)	
	出版社:	・累計		( 語)	
読んだ日	月 日	読み終えた日	月 日		
英語レベル	難しかった	まあまあ	易しかった		
	☆…最高! ◎…とても面白い ○…まあまあ △…まあいぢ ×…つまらなかった				
	・多読の満足度 (☆～×のどれかで記入) ( )		・本の評価 (☆～×のどれかで記入) ( )		
内容紹介・感想・メモ:					
Book No.	書名:	語数		・この本 ( 語)	
	出版社:	・累計		( 語)	
読んだ日	月 日	読み終えた日	月 日		
英語レベル	難しかった	まあまあ	易しかった		
	☆…最高! ◎…とても面白い ○…まあまあ △…まあいぢ ×…つまらなかった				
	・多読の満足度 (☆～×のどれかで記入) ( )		・本の評価 (☆～×のどれかで記入) ( )		
内容紹介・感想・メモ:					

付録 2. 読書記録の英文例

**Example: Instant book report**

*I read a book called \_\_\_\_\_ .*

*It's a(n) \_\_\_\_\_ story. (adventure, mystery, science fiction, love, detective, true)*

*It's about \_\_\_\_\_ .*

*The main characters are \_\_\_\_\_ . (names, jobs, personalities)*

*In the story, there was a problem. \_\_\_\_\_ .*

*I liked/didn't like this book because \_\_\_\_\_ .*

付録 3. 読書記録：2013 年秋学期

Extensive Reading (*Comprehensive English D: Fall Semester*)

Student Number ( \_\_\_\_\_ ) Name ( \_\_\_\_\_ ) No.1

Book 1	Title:	Words:
Rating: (boring 1 2 3 4 5 fun) (easy 1 2 3 4 5 difficult)		Review: ☆☆☆☆☆
Comment		
Book 2	Title:	Words:
Rating: (boring 1 2 3 4 5 fun) (easy 1 2 3 4 5 difficult)		Review: ☆☆☆☆☆
Comment		
Book 3	Title:	Words:
Rating: (boring 1 2 3 4 5 fun) (easy 1 2 3 4 5 difficult)		Review: ☆☆☆☆☆
Comment		
		Total words: _____ words

1



